†ボルシェヴィズムに対する擁護者

帝国総司令官- †ハインリヒ•ヒムラー

第三帝国の原書からの翻訳:

「反ボルシェヴィティシュのシュッツスタッフよ、死ね」

カンプフォーガニゼーション

Machine Translated by Google

目次

ボルシェヴィズム	4
プリム	4
その他の例	5
フランス/フリーメーソン革命	5
ロシア革命	5
私たちの民	7
ゲルマン法	7
神の秩序	7
動物の権利	8
文化的な発見	8
祖先崇拝	8
勇気と強さ	9
天文学の知識	9
最古の鋤	9
アルファベット	9
我々の苦難の歴史	9
ヘルマン•ケルスカー	10
ゲルマン秘書	10
ヴィドゥキントの必死の戦い	10
アレマンの戦い	10
農民戦争	10
私たちの美徳と欠点	11
私たち自身の責任	11

Machine Translated by Google

従順への道

教会とドイツ騎士団への奉仕12

シチリアにおけるフリードリヒ2世の国 12

東プロイセンにおけるドイツ騎士団の地位 12

プロイセン軍 12

オールド•フリッツのプロイセン 13

解放戦争 13

1864年、1866年 13

世界大戦 13

総統と国家社会主義 14

親衛隊 14

親衛隊の創設 14

血の価値と選択についての知識15

自由への意志と闘志 16

達成度のテスト 16

忠誠と名誉 16

従順 17

結婚法 17

子供の勝利 18

SS隊員の名誉法 18

神への信仰 19

血と土 20

治安機関と秘密国家警察 20

ボルシェヴィズムは現代の現象ではない20

親衛隊 21

Machine Translated by Google

ボルシェヴィズム

今日、ボルシェヴィズムについては多くのことが語られています。ほとんどの人は、ボルシェヴィズムは現代に出現した現象であると考えています。ボルシェヴィズム、つまりユダヤ人が組織し主導する劣等人種の闘争は、世界史上まったく新しいものだと信じている人さえ多くいます。

地球上に人間が存在する限り、人間と亜人の間の闘争は歴史の法則であったことを明らかにすることは重要だと私たちは信じています。ユダヤ人が率いるこの人類に対する戦争は、私たちが知る限りずっと昔から、この惑星の生命の自然な流れの一部でした。この生と死のための闘争は、疫病に対する人間の闘いや、健康な身体に対する疫病の攻撃と同じくらい自然の法則であると自信を持って言えます。

したがって、ユダヤ人ボルシェビキの敵の戦術を認識するためには、過去から現在までの彼らの闘争方法のいくつかの非常に明確な例を研究する必要がある。

プリム

聖書には、ボルシェビキ-ユダヤ人の手法によるアーリア民族の徹底的な絶滅の歴史的例が 1 つ記されています。ユダヤ人がペルシャ人の間で、すべての都市や村、首都スーファに分散していたことが記されている、ユダヤ人の歴史の一部をご覧ください。アーリア系ペルシャ人は、これらのユダヤ人がもたらす危険を認識していました。ペルシャにおけるユダヤ人問題を解決しようとする意志は、大臣ハマンによって体現されました。聖書ではアハシュエロスと呼ばれているが、実際はクセレスであった王は、宮廷ユダヤ人の極めて巧妙な陰謀により、ペルシャ人の妻バスティと引き離されました。王はユダヤ人の娘たち、特にユダヤ人娼婦エステルの影響を受けていました。

民衆志向で人種意識の高い大臣ハマンの意に反して、ユダヤ人の巧妙な陰謀が、無節操で盲目の王が忠実な大臣ハマンをユダヤ人のマルドヘイに引き渡して絞首刑に処すという結末を迎えたと書かれています。この忌まわしい慣習は、歴史の後半にも見られます。マルドヘイは副王に任命されました。彼は、ボルシェヴィズム特有の冷血で冷静で無慈悲な計算で命令を出しました。彼は、特定の日に王の勅令で保護されたユダヤ人によって、最も高貴なペルシャ人と町や都市のユダヤ人の敵全員を殺害させました。

聖書によれば、その日 75,000 人のペルシャ人が虐殺された。この虐殺は、アダル月の14 日と15 日を祝日とする王の勅令によってさらに強化された。今日に至るまで、この祝日はユダヤ教の偉大な勝利祭であるプリムとして祝われている。

古代ペルシャ人がこの打撃から立ち直れなかったことは明らかである。

Machine Translated by Google

この民族がユダヤ系ボルシェヴィズムによって打撃を受け、破壊され、ゾロアスター教という高尚で純粋な宗教を失っただけでなく、母国語も失ったという悲劇の全体像がわかる。
2000年後になってようやく、ドイツの学者たちは骨の折れる科学的な作業の末、古代ペルシア語をドイツ語に翻訳することができました。

これがボルシェビズムの常道である。人民のリーダーシップは弱められ、経済的、科学的、文化的、精神的、心理的、そして肉体的な奴隷状態に陥るのだ。
無限の人種混合によって価値を失い堕落した民族の残党は、数世紀という歴史的に短い期間で消滅し、後には、そのような民族が存在したことだけが知られるようになる。

その他の例

他にどれだけの悲劇が、完結したものもそうでないものも、この地球上で起こったかは、私たちにはわかりません。多くの場合、私たち全員の永遠の敵であるユダヤ人が、なんらかの形でこのゲームに血なまぐさい手を出したのではないかと疑うことしかできません。時代を超えて、カンシュタットやベルダンのように、死刑執行人の剣が何度も振り下ろされるのを私たちは見ています。何万人もの人々が殉教した燃える火あぶりの刑柱、私たちの同胞の母親や少女たちのバラバラになった遺体が灰に焼かれたのを私たちは見ています。私たちの心の目には、スペインの人口を減らした異端審問の法廷が浮かびます。それはちょうど、私たちの繁栄していたドイツ民族を、たった一生の間に2400万人から半分飢えた400万人にまで減らした30年戦争のようです。

フランス/フリーメーソン革命

さて、ヨーロッパの完全性のために、より最近の時代に移ります。フランス革命の恐怖政治の方法

ジャコバン派と「疑わしい者を排除する」法律の時代に、ボルシェヴィズムは本格的に発展した。金髪碧眼のフランス民族の最も優秀な息子たちの虐殺である。真実を述べるために、フランス人は

革命は、ユダヤ人の名門組織フリーメーソンの組織による革命にほかなりません。フリーメーソンは、自分たちの「栄光ある」革命を認めただけでなく、世界中のあらゆるロッジ、最も無害なドイツのロッジに至るまで、それを自分たちの勝利として称賛しています。

ロシア革命

さて、ロシア革命についてお話しします。ここでもう一度日付を繰り返すのは私の仕事ではありません。むしろ、この文脈で重要なのは、その方法について言及することです。

まず、ロシアの社会的に苦しんでいる人々の不満が組織的に利用され、革命のプロパガンダに利用される。

Machine Translated by Google

農奴制廃止を求める人々、特にストルイピン大臣は、改革をロシアの利益のために実行する前に、ユダヤ人の無政府主義者によって排除される。ロシアをドイツとの戦争に駆り立てるために、あらゆる手段が使われる。世界大戦の勃発にユダヤ人/フリーメイソンの活動が果たした役割を忘れてはならない。

ロシアでは、ボルシェビキ革命の次の段階が始まる。フリーメーソンはこれを「黄旗体制」から「赤旗体制」への移行と呼ぶ。議会の専門用語で言えば、民主ブルジョア政党から穏健な社会主義政党、つまりわれわれ社会民主党と向こうのメンシェビキに政権が移る。彼らの先頭に立つのはユダヤ人のケレンスキーで、彼に対する扱いはアーリア人の優しさの典型である。彼のユダヤ人の母親は、ここでこの教訓的なエピソードを引用させていただくと、アナキストの攻撃に関与したために死刑判決を受けたが、ケレンスキーを身ごもっていたため、前皇帝の父親によって赦免されていた。

まさにアーリア人の優しさに命を救われたこの男が、最後の皇帝を廃位し、ボルシェビズムへの道を開いた。

しかし、ロシアにはまだ抵抗勢力が多すぎた。この人々は再び冷酷に煽動され、攻撃を開始した。再び、アーリア系ロシア人は屠殺台に送られた。最終的な解体が可能になった。フリーメーソンの専門用語を使うと、もうひとつの変化があり、「赤旗システム」は最後のシステムである「黒旗システム」に置き換えられた。議会制の用語で言えば、統治は穏健な社会主義政党から急進的な社会主義政党、ボルシェビキの手に移った。もう邪魔するものは何もない。ユダヤ人は国家の全権力を行使して、抵抗する良血の過激な虐殺を完了した。他の者は皆、恐怖と恐怖に屈した。

エステル記にはこうあります。「多くのペルシャ人がユダヤ人を恐れてユダヤ人になった！」黒旗制度のもとでは、性格の弱い非ユダヤ人は皆ユダヤ人に寝返る。彼らは処刑人の助手や助けになる霊、密告者、そして自国民に対するスパイになる。

こうした絶滅方法の完成度は、ロシア秘密警察の戦術から見て取れる。彼らは、何度も何度も、自らの政権に対する反乱を主要なエージェントとともに組織的に組織化し、そのような反乱に参加するリーダーを見つけ出し、無力化しようとした。抵抗運動のリーダーは、この苦しめられたアーリア民族の中で、まだ考えることができる、あるいはボルシェビキやユダヤ人に対抗するリーダーになることができるすべての人々が、倒れた。

ロシア革命を調べてみると、1918 年のドイツ革命との類似点が数多く見つかるでしょう。唯一の違いは、慈悲深い神、優しい摂理がダムを造り、抵抗勢力を呼び起こしたことです。1919 年、適切な時期にアドルフ ヒトラーが活動を開始しました。

Machine Translated by Google

すべてを見てみると、大小さまざまな証拠を無数に加えることができます。国家の歴史におけるボルシェビズムの血塗られた光景のために。

皆さんが私の意見に反対するとは思えません。誇張されたアーリア人/ドイツ人の客観性を持つ特定の事柄ではなく、むしろ一般的な見方で見てください。ユダヤ人、劣等人種、そして彼らの補助組織において、私たちは巧妙な敵に直面していることが分かるでしょう。彼らは破壊を組織することに関して賢く、有能です。

彼らは、酒場や大臣や君主の部屋で、あらゆる機会や可能性を利用する方法を知っている。彼らは暗殺、毒、致死性の鋼鉄の投下、望ましくない人口層全体の飢餓、陰謀、個々の指導者の名誉毀損、人格同士の対立（死ぬまで友であるべき）、路上や官僚機構の隅での闘争、農民の根絶、宗教の悪用を熟知している。彼らは、これらの戦いに平和への鍵はなく、勝者と敗者だけがあり、この紛争での敗北は民族の死を意味することを私たちよりもよく理解している。

また、この敵が少なからぬ数の勝利を収めていることにも気づくでしょう。彼は、自らが破壊した国々の名前を、自らの破壊の旗に記すこともできるでしょう。

皆さんは、これらの観察が過去と現在のボルシェヴィズムだけでなく、将来のボルシェヴィズムについても扱っていることを決して忘れてはなりません。

私たちの民

我々の民族がいかに偉大で、いかにその思想が崇高で、いかにその法学によれば、これらすべては常に次の事実によって私に明らかにされます。

ゲルマン法

古代ゲルマン法では、神によって創造され、すべての人にとって神聖な自然を、無許可の個人が破壊することを禁じていました。比較的最近まで、ゲルマン人の居住地では、他の農民の同意なしに村内の木を切ることは禁じられていました。木を切ると、新しい若木を 3 本植える義務がありました。

神の秩序

この法の概念には、生命と地球上のすべてのものは神によって創造され、魂を持っているという私たちの祖先の聖なる信念が含まれていました。愚かで悪意のある愚かな人々は、これを私たちの祖先が神と木を崇拝していたという神話に歪曲しました。いいえ、古代の知識と古代の教えによれば、彼らは

Machine Translated by Google

この世界全体、すべての植物界と動物界の神聖な秩序を確信しています。

動物の権利

アーリア人、ゲルマン人だけが、この世界の無数の他の国々では権利を持たない動物を、自らの法体系に含めることができた。ここでも、中世後期の名残が見られる。動物による被害が明らかな場合、たとえばネズミの大発生の場合でも、市議会は、人間にとっては破壊的なこれらの小さな動物の駆除を、難なく命令することはできなかったことが、歴史の記録からわかる。なぜなら、動物は神の秩序に根ざし、神によって創造されたからだ。そこで、動物は裁判にかけられ、良識あるドイツ人は、被告である小さな動物に弁護士まで付けた。法的手続きが行われ、この小さなげっ歯類がこの地球の秩序と調和を損なったことが証明されて初めて、動物に対するキャンペーンが命令されたのである。

今日、私たちはこれらの古くて、私たちの基準からすると子供じみた考え方を笑うかもしれない。
現代の信心深さを持たない我々人間にとって、この世界観の深さと偉大さ、神への深く根付いた信仰、そして神に基づいた秩序に頭を下げるのは、より良いことではないでしょうか。

文化的な発見

他の写真もお見せしましょう。畑の端に沿ってあちこちドイツの土を掘ると、表面からほんの数手のひら幅のところから、貴重な銅、銀、金の破片が見つかります。その職人技、芸術性、古典的美しさは、現代の技術的に非常に進歩した人間でも、とても達成できるものではありません。

祖先崇拝

私たちは巨大な石造りの墓地の前に立ち、私たちより何千年も昔の人々のことを思い起こします。彼らは私たちのようにけちではなく、数世代後には片付けて骨を箱に入れて壊さなければならない墓地を建てました。むしろ私たちの先祖は何千年もの間記念碑を建て、私たちは今日その前に敬虔に立ちます。おそらく今日、私たちの多くに、先祖崇拝は民族の力の源であり、先祖を崇拝する人はそれぞれ自分の偉大さや重要性を正しい物差しで測るという考えが再び浮かぶのでしょう。

勇気と強さ

あるいは､ローマ史に最初に登場した部族であるキンブリ族とチュートン族についてのローマの著述家の記述をもう一度紹介することもできます｡彼らは大きく､非常に強く､そして美しかったのです｡
彼らの攻撃は激しく､尽きることのない力でローマ軍を次々と打ち破り､ついには我々の祖先の失敗の犠牲となった｡そしてローマの規律と軍の秩序によって彼らは敗北し､全滅した｡

天文学の知識

私は皆さんに平和なイメージをお伝えできます｡今日､地図を見て古い集落を描いてみると､肉眼で見える範囲をはるかに超えた調和のとれたパターンを形成していることがわかります｡それらは､今日まで比類のない天文学の知識に基づいて組織されました｡それらは､これらの星と私たちの星を創造した神に対する深い尊敬の念を持つ人々によって築かれました｡

最古の鋤

もう一つの平和的な例は､わが民族の最古の武器である鋤です｡5000年前に､輪作を含む前例のない合理的な耕作秩序のもとで､わが国の土壌に引き込まれたことが知られています｡

私たちが鋤を他人から得たのではなく､ローマ人がゲルマン人の祖先から改良された鋤を採用したのだということを思い出し､強調したいと思います｡

アルファベット

最後の例は､ルーン文字です｡これは､おそらくほとんどの人にとってすべての文字の母です｡アーリア人/ドイツ人の最も古い祖先が意識的にこれを考案し､作成しました｡先史時代のいくつかの標本は､自然に飲み込まれたと考えられています｡つまり､崖の文字です｡カール•フランク王が他の無数の書物を収集したことは知られていますが､ユダヤ教に改宗した息子ルートヴィヒ敬虔王は､非寛容な教会と結託して､ほとんど例外なくそれらを燃やしました｡

我々の苦難の歴史

簡単にまとめると､これが私たちのフォークです｡

しかし､この民族の歴史を見ると､過去 2,000 年間は､精神と肉体のあらゆる賜物に恵まれた民族にとって､最も苦難に満ちた歴史であったことがわかります｡

Machine Translated by Google

私たちはなぜ？という大きな疑問を抱きます。

ここでも、多くの例の中からほんの数例を取り上げ、その上で答えを試みたいと思います。

ヘルマン•ケルスカー

ローマ支配からゲルマニアを解放したのは、ご存知のとおり、ヘルマン•ケルスケルでした。彼は、義父が解放者の妻である自分の娘をローマ人に引き渡した後、同族の男たちによって殺されました。

ゲルマン秘書

ローマ帝国の最後の数世紀を思い出してください。カエサルの最も近かった同僚は、ローマのためにガリアを組織したゲルマン人でした。その時から、ローマ帝国の輝きと偉大さは、ゲルマン人の創造性、ゲルマン人の指導力の天才、ゲルマン人の指導力、そして、腐敗し人種的に破滅したローマ国家に自らの血と戦うゲルマン人の兵士たちによって、何度も確保されました。

ヴィドゥキントの必死の戦い

私が言及しているのは、ヴィドゥキンドの絶望的な戦いであり、彼自身の部族と彼自身の同族の貴族、同じ血を引く人々が団結できず、後に彼らの公爵を背後から刺したために敗北が運命づけられていた。

アレマンの戦い

私が言及しているのは、上述の負けたアレマンの戦いである。なぜなら、自由奔放なゲルマン人たちは、自分たちの血を引く公爵たちが馬に乗っている姿を見るのに耐えられなかったからである。なぜなら、そうすると公爵たちは他の公爵たちよりも背が高くなってしまうからである。

農民戦争

最後に、英雄的な闘争が大きな混乱、分裂、規律の欠如を伴った農民戦争について言及します。農民の最高の頭脳によって考え出された純粋な願望と賢明に構想されたドイツ国家のビジョンは、

戦いに敗れた後、治癒不能で愚かなゲルマン人の血まみれの死体とともに墓に沈んだ。最後に残ったのは、孫たちがもっとうまく戦ってくれることを願う、悲劇的で洞察力に富んだ願いだけだった。

Machine Translated by Google

私たちの美徳と欠点

確かに、私たちの最も優れた美徳の一つは、自由を求める強い意志です。
確かに、我々の血の選択は、我々の人種の善良さとして今日まで保存されている最良の血です。しかし、その両方は、文化的偉大さと英雄的な闘争への動機と原動力であるだけでなく、すべてのドイツ人の偉大な国家の創設に対する障害でもあり、したがって、何世紀にもわたる我々の歴史全体を通じて我々が被ってきたすべての敗北の原因でもあります。

同等に優れた血統の価値、つまり自尊心の過度な評価は、貴族が他人に従うこと、公爵が他人に忠誠を誓うこと、人が他人に服従することを不可能にした。同じ血統のゲルマン人は、ヴィドゥキントからフロリアン•ガイヤーまで、間違いなく存在した彼ら自身の指導者や支配者たちがドイツ国家を創ることを可能にしなかった。結局のところ、ゴート人、ヴァンダル人、ブルグント人、アレマン人などの帝国は、これらの欠点のために次々と滅びていった。

ドイツ人がドイツ精神に基づいた国家を築けなかったとき、他のドイツ人は拳を振りかざして、流血と涙と悲惨を伴い、外国の精神に基づいた国家を受け入れるよう強制した。

毎回、私たちは同じ物語を目にします。不服従、非服従、敵の過小評価、そして、実際には存在しない政治的状況や要因の条件に対する非現実的な願望です。この地球上の政治的紛争の現実を冷、徹に計算した敵が、どのような形であれ、何度も私たちに立ち向かいました。敵は一歩一歩前進し、質の低い、劣った血、貧しい文化にもかかわらず、何度も私たちを打ち負かしました。

私たち自身の責任

このように、我々の国民は - 我々ドイツ人のためにこれを確かめたい -
過去 2000 年間、私たちは自らの過失によってこの困難な道を歩んできました。
敵が我々を打ち負かし、我々の血を要求したからといって、その敵を責めてはならない。神の広大な世界の法、この地球の法、そして諸国の法は、誰がその広い心で善意を持っていたかではなく、誰が勝利したかを数えるのである。

多くの人は、静かに憤慨しながら疑問を投げかけるだろう。「すべての美徳にもかかわらず、なぜこのようなひどい過失や間違いの判定を下すのか ?私たちは未来に信頼を置くことができるのか？」

私たちはここで、私たちの民族と血族の未来に対する信頼を強めるものは、すべての過ちと

Machine Translated by Google

あらゆる苦難にもかかわらず、私たちの民族は今も生きており、今日再び偉大さを達成しました。私たちは運命と私たちの血の使命を信じています。過去 2000 年の歴史には、敗北と悲惨さだけでなく、私たち自身の生存に必要な学習の道も見られます。

従順への道

教会とドイツ騎士団への奉仕

この千年紀の初めに、教会の命令に従って、ドイツの一族の長男以外のほとんど全員が、司祭や教会役員として教会に仕えるようになりました。多くが十字架を背負い、東の砂漠地帯へと向かうドイツ人の血の十字軍に加わりました。これらの十字軍騎士の中には、騎士司祭としてさまざまな騎士団に組織された者もいました。彼らはドイツの勇気、ドイツのリーダーシップ、ドイツの清廉潔白さを携えてやって来ました。

彼らは、ローマカトリック教会の秩序の中で、服従、従属、そして教会よりもさらに古い国家の権威を学んだ。

シチリア島におけるフリードリヒ2世の治世

この騎士団は、シチリア島でフリードリヒ2世によって設立された、統治と権威主義的服従の原則に基づく最初の近代国家の創設に参加しました。この知識に満ちた騎士団は、13世紀前半に政治的に賢明な司祭貴族ヘルマン・フォン・ザルツァによって東ドイツに移植されました。そこで騎士団は、皆さんがよくご存知の東ドイツに騎士団の国家を建設しました。

東プロイセンにおけるドイツ騎士団の地位

その時初めて、ドイツ語に服従を導入するのは容易だった。
領土。キリスト教の絶対的な支配に加えて、人種的に最も優れたドイツの血統を持つ騎士、つまり最も高貴な一族の出身で戦闘で実績のある男たちが、人種的に我々の同胞と同等ではない人々や混血の人々を支配する階級を形成したという事実が生まれました。業績と人格の価値は、教会への服従に次ぐものでした。

プロイセン軍

ブランデンブルク選帝侯がプロイセン王として支配したこの東プロイセンから、行政組織、清潔さ、そして何よりも無条件の服従の原則がプロイセンに取り入れられた。プロイセン軍とその傭兵はドイツ国内で最初の絶対的規律の偉大な学校となった。当時、この規律は単に最も高貴な階級だけに基づいていたわけではない。

Machine Translated by Google

人間の魂の動機は、多くの場合、より強い者、国家の力、金と生活、軍曹の鞭への恐怖に基づいている。

オールド•フリッツのプロイセン

それはしばらく続いたが、英雄的な精神を持つ偉大なプロイセン王、フリッツ爺さんが、この規律正しい軍隊を率いて三つの大戦争を戦った。第三次シュレージエン戦争の最後の戦いでさえ、士官候補生団で情け容赦なく服従の訓練を受けたプロイセンの将校が、鞭を持ってマスケット銃兵の後ろに立っていたというのは、おそらく事実だろう。しかし、この服従は、リーダーへの愛、発展するプロイセンの祖国への愛、そして単なる傭兵ではなく、この英雄的なプロイセン軍の英雄になれるという名誉によって、すでに高貴なものとなっていた。この無条件の服従の中に、初めてメロディーが聞こえてくる。祖国の良き子供になろう。

解放戦争

惨敗の後の次のステップは、1812年から1815年の解放戦争における人民軍の登場でした。ブルジョワの息子や学生は、すでに民兵やプロイセン軍の兵士として自発的に服従して奉仕できることを光栄に感じていました。その後、歴史はより速い歩みで進みます。自由と名誉、そして服従の概念は、ますます人々に近づいていきます。

1864年、1866年

シュレースヴィヒ=ホルシュタイン人、バイエルン人、ヴュルテンベルク人、その他の南ドイツ人は、太古の昔からその土地に住んでいた自由を愛する民族である。彼らの発展は多くの点で似ており、必ずしも順調ではなかった。しかし、この精神の軍隊によって、プロイセンは1864年と1866年に彼らを征服し打ち負かすことができただけでなく、むしろ彼らを内心、秩序と従順さで勝ち取ることができた。
ドイツ帝国を内なる信念で統合します。

世界大戦

歴史はさらに半世紀進み、世界大戦へと至りました。名誉、自由、服従は、さらに近づきました。200 万人の優秀なドイツ人が、自由のための戦いに加わっただけでなく、ドイツ軍という最高の組織に従軍することも、同様に進んで志願しました。

4年半の間、私たちは鍛えられました。そして今、運命は私たちがまだすべてを学んでいないことを示し、それを指揮しなければならない人々に示しました。彼らはしばしば、最後の最も困難な試練の時に、最後の服従を忘れていました。王冠、シンボル、国家権力の外的な象徴が、貧困、泥、悲惨の中で消えていく時です。

Machine Translated by Google

彼らの指導者に忠誠心を与えるのは、同じ血統の民だけです。たとえそうであっても、忠誠心は名誉、自由、服従が調和していなければ与えられません。忠誠心は、たとえ名誉を傷つけ、自由を侵害したと思われても、どんな不服従も常にその主人自身を苦しめるということを、従わざるを得ない者たちに示しました。忠誠心への違反、つまり父祖の最初の罪であり、自らの血統、ひいては不服従者を奈落の底に沈めるのです。

総統と国家社会主義

崩壊しつつあったドイツ国民にとって、服従への道の最後の学校が今始まった。運命は総統を我々に送ったのだ。

彼は偉大なドイツ軍の従順な兵士であり、自由、名誉、そしてわが民族の血の価値に関する知識をすべて持ち、私たちを自分の学校に迎え入れた。15年間の闘争と勝利の中で、彼はまず少数の人々を、そしてその後ますます多くの人々を、自由を最も愛する最も戦士らしいドイツの血を選抜して、国家社会主義者として訓練した。今日はこの概念を定義しよう。我々の民族と血の価値を自覚的に担い、血が文化と偉大さにとって最も必要な前提条件であることを知っている人々として。同時に、彼は最も熱狂的な人々の間でさえ自由と名誉への意志の炎を煽り、彼らにさらにエネルギーとさらに不屈の意志を与えた。最後に、彼は平等な血の価値、自由への強い意志、そして非常に鋭く感じられる名誉感の強さを、自発的、したがってさらに義務的な服従と結び付けた。

それは血、名誉、そして自由への欲求から生まれたものです。

ドイツの歴史と、わが民族の自ら招いた苦難の道を、この目でもう一度見つめることができると私は信じています。それは、この世の永遠の善なる法則に従った目的を明らかにしています。これは同時に、指示であり義務でもあります。わが民族は終わりに立っているのではなく、むしろ、この世界の民族の間で与えられた使命と任務の始まりに立っているのです。

親衛隊

さて、親衛隊そのものについてお話しします。親衛隊は、アドルフ•ヒトラーによって創設され、訓練された国家社会主義ドイツ労働者党の一部です。総統の運動の中で、親衛隊は国内における帝国の防衛という特別な任務を負っています。

親衛隊の創設

総統は1929年に親衛隊の創設命令を出し、1月29日にはこの組織を拡大するための命令も出した。1929年当時、我々にとって、親衛隊が任務を遂行できるのは、運動の総統が確立した原則と指針、そして教え込まれた美徳に最高度に基づいている場合のみであることは明らかだった。

Machine Translated by Google

血液の価値と選択に関する知識

最初のガイドラインは、血と選択の価値についての知識であり、私たちにとっても今も変わりません。この前提条件は 1929 年に有効であり、親衛隊が存在する限り有効です。

私たちは、混ざり合って劣化してしまった古くて良い品種を精製したいと願うブリーダーのように作業を進めました。まず、彼はいわゆる種子の選別のために畑を訪れます。
当初、私たちは外見上の特徴に基づいて、親衛隊の編成に不適格と感じた人々を拒否しました。

選抜は、主に北欧人の身体的理想に最も近い人物に集中しました。体格や人種的容姿などの外見的特徴が重要な役割を果たしており、現在もその役割を果たしています。

このプロセスは、経験を積むにつれて年々改善され、厳格化されてきたことは言うまでもありません。また、この選抜が止まることは決してないと私たちは確信しています。ドイツの人種衛生と、血統と繁殖に関する理解の高まりにより、ドイツの人間性が高まるにつれ、私たちの要件は年々厳しくなっています。

100 年後、あるいはそれ以上の未来の子孫に求められる要件は、今日よりもはるかに多くのことを個人に要求するはずです。また、外見上の特徴に基づく選択 (今日では系図や検査によって行われています) は、最初の、まさに最初の基準にしか過ぎないこともわかっています。親衛隊の生涯を通じて、この選択プロセスは継続されなければなりません。その後、性格、意志、感情、そして血統の点で私たちにふさわしくない人々を排除しなければなりません。

我々が自らに課した法律によって、我々は将来、SSの氏族名簿に登録されたSS一家の息子全員がSS候補者になったり、SS隊員になる権利を主張したりしないことを保証したい。我々は、常にこれらの一家の息子のうちの一部だけがSS隊員として受け入れられることを確実にしたい。全民族の最良の血統の選択と血流は、我々の義務である。

親衛隊では絶えず発生します。 - これが、選択の原則について私が今言わなければならないことです。

Machine Translated by Google

自由への意志と闘志

私たちが親衛隊の永遠の特徴として将来にわたって推進しようと努める第二の指針と美徳は、自由への意志と闘志です。

達成度のテスト

我々は常に、あらゆる戦い、あらゆるポジションで最高を目指す野心を抱いてきた。我々と同等かそれ以上の功績と闘志を持つあらゆる人物、あらゆる陣形を我々は喜ぶ。我々と同等の人物は、ドイツにとって利益となるからだ。彼はまた、我々のエネルギーが足りなかったこと、そして戦う意志を磨き、自分自身に対する強靭さを鍛えるために努力を倍増させなければならないことを証明している。

我々全員が生涯通わなければならない最も困難な学校と、我々全員が毎年合格しなければならない達成度テストは、各個人、とりわけ指導部員の勇気と闘志が何度も試されることを確実にする。これらの毎年のテストは同時に、ドイツ国民にとってしばしば致命的な脅威となってきた我々の隊列の自己満足を防ぐことになる。

さらに、老齢期まで定期的に肉体的および意志力の成果を要求するコミュニティは単純なままです。長期的には、快適な生活には確かに良いかもしれませんが、ドイツにとっての力を弱め、闘志を弱める可能性のあるものを自動的に拒否することになります。

忠誠と名誉

親衛隊の発展と本質に必要な 3 番目の指針と美徳は、忠誠と名誉の概念です。これらは 2 つの声明で示されています。1 つは総統が私たちに与えたものです。「私の名誉は忠誠です!」もう 1 つは古いドイツの法則に由来しています。「すべての名誉は忠誠から生まれる」 。

SS隊員に教えるのは、この世では多くのことが許されるが、一つだけ許されないことがあるということ。それは不忠誠である。忠誠を破った者は、我々のコミュニティから離脱する。忠誠は心の問題であり、決して精神の問題ではない。精神は抵抗するかもしれない。それはしばしば有害だが、決して矯正不可能ではない。しかし、心は常に同じように鼓動していなければならない。もしそれが止まれば、人は死ぬ。忠誠を破った民衆が死ぬのと同じである。ここで言う忠誠とは、総統への忠誠、したがってドイツ/ゲルマン民族、その意志と同族への忠誠、血統への忠誠、祖先と孫への忠誠、一族への忠誠、同志への忠誠、そして礼儀正しさ、清潔さ、騎士道という反駁の余地のない法則への忠誠である。忠誠と名誉に対する罪を犯すのは、忠誠を破った者だけではない。

Machine Translated by Google

人は、自分や親衛隊の名誉が傷つけられることを受動的に許している。他人の名誉を尊重せず、他人にとって神聖なものを嘲笑し、不在者や弱者、無防備な者のために男らしく礼儀正しく立ち上がらないなら、何よりも名誉に反する罪を犯すことになる。

従順

私たちに当てはまる第 4 の指針と美徳は服従です。それは、崇高なボランティア精神、私たちの世界観への奉仕から生まれる無条件の服従です。私たちは、プライド、外見上の名誉、または個人的に大切で貴重な他のものを、どんな犠牲でも払う用意があります。この服従は一度もためらうことなく、総統や適切な上司からのすべての命令に無条件に従います。この服従は、自由への意志が叫びたくなる闘争の時期には沈黙を守りました。この服従には、敵に向けられた警戒心、命令されない限り指一本動かさないことが求められました。また、たとえ心の中ではできないと感じていたとしても、攻撃時には無条件の服従を意味しました。

我々は正直なので、最後の一人に至るまで我々全員がこれらの法則を完全に理解しているとは主張しません。しかし、過去6年間、親衛隊の大部分はこれらの法則に従って集まり、これらの法則の上に築かれ、これらの法則に従って活動してきたと言えると信じています。我々は、これらの美徳を毎年ますます吸収し、各SS隊員の自明の財産にしなければならないことを知っています。遅かれ早かれ、運命が決まり、この親衛隊の第一世代がいなくなったとしても、我々はこれらの美徳を完全な遺産として、そして我々の後継者となるSS隊員に最高の伝統として引き継ぐことができると確信しています。

結婚法

これらのガイドラインと美徳に従って、私たちは自分たちに法律を制定し、コミュニティの生活を確立し、遠い未来への道筋を定めました。最初の法律は1931年にSS法として制定され、SS隊員全員に結婚と婚約の許可を求めました。私たちはその結果を導きました。

血の価値の認識から。一族のことを考えずに人種的に選ばれた男性を集めるのは無駄だと私たちは知っている。血統と一族の伝統が欠如しているために何世紀も存続してもやがて消滅するかもしれない兵士や他の男性組織の過ちは、私たちは繰り返したくない。コミュニティが未来への道を指し示すことができるのは、最も古い時代の祖先を敬い、民族の永遠の起源を確信して生きる場合のみであることを、私たちは深く確信している。血の認識が神聖な遺産として解釈され、人種的に純粋な一族だけが、未来への道を指し示すことができることを私たちは知っている。

Machine Translated by Google

受け継がれなければならない - 人種と民族は永遠の命を持つことができる。祖先と子孫の間に寝ている世代だけが、その任務と義務、そして個人自身の死すべき自己の細かさに対する正しい尺度を理解するという確信が私たちに浸透している。

子供の勝利

我々は、この信念を持つ者だけが成功しているときでも謙虚さを学び、自信過剰や傲慢さという過ちを避けることを学んだ。同様に、そのような者だけが、幸運なときに示したのと同じ鉄のような冷静さで、スパルタの簡素さの中で生き、最大の苦難のときに耐えることができる。我々はSS隊員に、結婚法や適切な配偶者の選択を超えて、ドイツ精神の勝利にドイツ人の子供の勝利が続かなければ、我々の闘争全体、第一次世界大戦での200万人の死、過去15年間の政治闘争、国境を守るためのドイツ国防軍の拡大はすべて無益で無駄であると教えている。

我々は、口先だけではなく、自らの陣営で行動と模範を示すことを任務の一つとしています。我々は今日も、そして将来も、我が国民の中で最も神聖で貴重な人物は神聖な義務を自覚している母親であり、ドイツの子供こそが最も貴重な存在であることを兵士たちに印象づけていきます。

SS隊員の名誉法

1935 年 11 月 9 日に SS によって制定された別の法律では、すべての SS 隊員は武器で名誉を守る権利と義務があるとされています。この法律は同時に、SS 隊員が SS 隊員の意味で誰であるかを定義しています。すべての SS 隊員は、114 年間訓練生として勤務し、総統に SS の宣誓を行い、勤労奉仕と国防軍奉仕を名誉ある形で遂行し、少なくとも 21 歳以上である必要があります。その後、SS の短剣が授与され、SS 隊員として正式な隊員として受け入れられます。下士官であれ、将校であれ、国家指導者であれ、私たち全員が SS 隊員なのです。

我々はこの名誉法を自らに課した。なぜなら、自分の行為や言葉のそれぞれについて、いつかどこででも責任を問われることを知っている者だけが、我々のコミュニティの最終的な意味を理解し、非の打ちどころのない清廉な生涯の兵士として国民に奉仕することを学ぶだろうと確信しているからだ。なぜなら、この名誉法は、他人に尊敬を求めるのと同様に、自分自身の名誉を守ることを義務付けるからである。それは、仲間、同胞、そして仲間の人間に対する原則、善良さ、寛大さを義務として課すからである。

さて、私はいくつかの問題について立場を表明したいと思います。まず、「SS隊員への50の質問と回答」と題された小冊子の最初の質問は、「あなたの宣誓は何ですか？」です。

Machine Translated by Google

神への信仰

答えはこうです。「ドイツ帝国の総統兼首相であるアドルフ•ヒトラーに、私たちは忠誠と勇気を誓います。あなたとあなたが指名した上官たちには、死に至るまで従順に従うことを約束します。ですから神よ、私たちを助けてください！」

2番目の質問は、「あなたは神を信じますか？」です。

答えは、「はい、私は神を信じています！」です。

3番目の質問は、「神を信じない人についてどう思いますか？」です。

答えは、「彼は傲慢で、誇大妄想的で、愚かだと思います。私たちにはふさわしくありません。」です。

私は、宗教に対する我々の立場を明確に示すために、この 3 つの質問と回答を皆さんにお知らせしました。我々の上に立ち、我々と祖国、我々の民族、そして地球を創造し、我々に総統を派遣した神に対する確信と信仰がなければ、このような鉄壁の部隊を編成することはできなかったでしょう。

私たちは、この地球の永遠の法則に従い、あらゆる行為、あらゆる言葉、あらゆる考えを守らなければならないと信心深く確信しています。
我々の心が考え、舌が話し、手が行うことはすべて、実行されて終わるのではなく、むしろ効果をもたらす原因であり、我々と我々の仲間に祝福または呪いとして戻ってくる避けられない道なのです。信じてください、このような立場をとる人々は無神論者とは程遠い存在です。我々は、コミュニティとして特定の宗派や教義を受け入れず、またそれを我々の仲間に要求しないという理由だけで、異教徒という言葉の誤用によって無神論者として中傷されることを拒否します。
我々は、宗教/教会/宗派の活動と政治/世界観の兵士活動の間にはっきりとした明確な線を引く権利と自由を自分たちに与え、いかなる違反にも激しく対抗します。同様に、我々は部下たちに教えています -

我々の同胞が過去にこの地域で経験した多くの正当な怒りや多くの悪い経験にもかかわらず、同胞の教育と信念に基づき、言葉や行為で侮辱することなく、同胞にとって神聖なものすべてを尊重すること。

Machine Translated by Google

血と土

ドイツの農民の皆さん、私が皆さんに提示する2番目の認識は、血も本質も農民であるSS国家指導者です。親衛隊が最初から代表してきた血の概念は、土地の価値と神聖さに対する確信と切り離せない形で結びついていなければ、消滅する運命にあったでしょう。人種と居住地の本局は最初から、「血の土」という概念を、表現は異なるが同じ意味を持つ形でその名称に定めていました。ドイツ帝国の国家農民指導者が長年SSに所属し、上級集団指導者としてこの人種と居住地の本局の長を務めているのは偶然ではないことを私は保証します。私が農民であり、国家農民評議会に所属していることも偶然ではありません。

農民もSS隊員も、無駄に多くのお世辞を言うタイプの人間ではない。過去もそうであったように、将来もそうあり続けるだろうと、はっきり言える。アドルフ•ヒトラーの農民が立つところでは、彼らの側には親衛隊が常に最も忠実な友人としているだろう。同様に、

私たちは、アドルフ•ヒトラーの親衛隊が立っているところに、ドイツの農民が最良の同志、友人としてその側に立っていることを知っています。それは今日もそうであり、将来もずっとそうでしょう。

治安機関と秘密国家警察

ドイツには、この黒い制服を見ると気分が悪くなる人がたくさんいることを私は知っています。私たちはそれを理解しており、あまり多くの人に愛されるとは思っていません。ドイツを大切に思う人全員を尊重すべきであり、尊重します。総統と国家に対して良心の呵責を感じる人は、私たちを恐れるべきです。これらの人々のために、私たちは保安局という組織を作りました。SSとして、私たちは秘密国家警察に勤務する人員も提供しています。ドイツ国防軍が対外的に帝国の名誉、偉大さ、平和の保護を保証しているのと同じように、私たちは対内的にドイツの安全を保証するという任務を常に果たします。ヨーロッパの中心であるドイツで、二度と人類以下のユダヤ•ボルシェビキ革命が内部から、あるいは外部からの密使によって起こらないようにします。我々は、存在と活動が知られているこれらすべての勢力に対して、たとえそれが今日であろうと、あるいは何十年、あるいは何世紀後であろうと、ほんのわずかな試みがあった日には、容赦ない死刑執行人の剣となるだろう。

ボルシェヴィズムは現代の現象ではない

冒頭に戻って、ボルシェヴィズムは、私たちが望むからといって議論で消滅させたり、考えを捨て去ったりできる現代の現象ではないことを再度強調したい。私たちは、ユダヤ人、すべてのゴミから構成される人々を知っている。

Machine Translated by Google

この惑星の民族と国家に、ユダヤ人の血を刻み込んだ。その望みは世界征服、その欲望は破壊、その意志は絶滅、その宗教は不信心、その思想はボルシェビズムである。我々は彼を過小評価しない。なぜなら我々は我々の民族の神聖な使命を信じており、アドルフ•ヒトラーの指導力と活動を通じて我々が再び復活した力を信じているからだ。

親衛隊

我々は総統の命令により設立された親衛隊として、この復活した民族の中に立ち、成長してきました。私は今日、SSの組織、設立、任務について皆さんに説明しようとしましたが、内心血を注ぎ、心を込めて理解しようとしない限り、誰も我々を理解しないでしょう。ドイツ民族の中でおよそ20万人という、これほど数の少ない我々が、なぜこのような強さを内に秘めているのか、説明することはできません。今日、黒い制服を着た我々一人ひとりが、どこにいようとも、この我々のコミュニティの強さに支えられている理由も、論理的に説明することはできません。競走馬の鞍の上であろうと、体育館でフェンシングをし、役人として奉仕し、建設作業員として石を運び、政府高官に就き、兵士として奉仕し、ドイツ精神の作品を創り、あるいはおそらくは目に見えないところで、男らしくどこにでも自分の立場を守っているのです。

私たち一人一人は、彼が一人で立っているのではなく、20万人の男たちが誓い合ったこの前例のない力によって立っていることを知っています
彼がこの黒人部隊の代表者であることを自覚しているかのように、彼は非常に大きなエネルギーを授けられます。彼は持ち場で最高の成果をあげてその名誉を果たさなければなりません。このように、私たちは国家社会主義の北欧の決意ある兵士の組織として、そして氏族の誓いの共同体として、不変の法則に従って集結し、遠い未来への道を歩みます。私たちは、より成功裏に戦った孫たちになるだけでなく、それを超えて、ドイツ/ゲルマン民族の永遠の生命に必要な遠い未来の世代の先祖になることを望み、信じています。

Machine Translated by Google